樞之本北元評月並運坐句合　年々月並集出来

價百五十泉

當季（何れ共ハ随意）二題にて八句言（但し一題四句づゝ）花三十六字

毎月廿日〆よせ廿五日開キ候猶又八ツ時迄中にまて我人様ニても御一覧被成候御句詠下候てもよろしく候○千句宛にて一巻と定未の巻より句の高次第ニて一巻ニ付四つ印以上右点メ高点ニ候方ニ巻呈上巻中出板不残出板ニ緩くすゝめ他呈上御懐に御仕会毎月ニ御催し可被出候外ニ

弐月並而已点位定　つ印下　一点　如来印下　四点

六印下　六、　眠虎印下　十一点半

従酉之年如此仕方ニ候　四点五、え山貝外

毎月八日歌仙言流外ニ風談會　序字二十四字　序上は茶料

当春も仕合と生延ニ例年之通年ニ候

元日開巻春興三句言　入花百字

天地人三〆兼掛物一幅宛七宮ニ延三兼扇一柄ツヽ呈上巻之中つ印以上出板各呈上十二月廿五日迄御出句御出候年礼の後ニ付花此三段御詠ニ料御見え帖の御ろうと御覧之御勝負御頼申上候、

家傳痰解散　かんそうきゝ去やくを以てをさむる　一袋四十八銅　大袋百銅

くハしくハ能書ニあり

痰と積の二三病いろく有るもの界てかくし

二病いろく有るもの也此薬ニて治やうをいふ事

かまへ重宝ニて百余るも弘ハ之候様へかんざんを京都

ニ而本大雅堂七十余年ニ業礼として出くれられく

日本橋西川岸本戸より二ノ割目かしず店小ニえ

同庵寄戸執事川コへ守地在更金亀花我扇